

はくび会送別会・ちくし送別会

3月24日にははくび会の総会と送別会が行なわれました。いつもなら修了式後に行なわれるのですが、今年は修了式等の開始時間が例年より遅いということで学部の卒業式後に行なわれました。

今年は修了式の日も卒業式の日もあいにくの雨で、華やかな着物姿の女性陣がかわいそうでした。式場もみやこめっせで遠いのに・・・。

今年のはくび会副会長の木村君の司会で総会がはじまりました。会計報告と新役員の発表では、次回のはくび会副会長が動物栄養の寺地君、ソフトボール大会はちくしが担当、ソフトボールの打ち上げは、生殖生物が担当することなどで承認されて総会は無事終了。21年度会長の松井先生の挨拶に続き、22年度会長の祝前先生の音頭で乾杯☆→送別会スタート♪

楽しいひとはあつという間で、まだ日も高いうちに送別会終了。始まった時間も早かったですね；

一方、ちくしでは送別会・夜の部に向けて準備スタート。今回は珍しく出前とかとってみました。ピザとお寿司。まるではくび会みたい(笑)。

ちくしの送別会は6時過ぎにスタート。広岡先生の「ぜひ集合写真を撮りましょう♪」という初のお言葉に、みんな若干引きながらも集合、名カメラマン加藤君のセルフタイマーにより、記念すべき今年度の畜産資源記念写真が出来上がりました。



今回ちくしを離れる2名は、残念ながら「永世院生」の称号を得るには至りませんでした。みんなからのメッセージの詰



まったアルバムをプレゼントしました。



宴会も中盤にさ

しかかったころ、生殖や育種の人たちもいつものように？合流～。みんなで楽しく過ごせました。とくに、長命さんの内モンゴル土産のお酒はいろいろと物議を醸していました。あれは何のにおいなんでしょうか？？ピンの注ぎ口も不思議でした・・・(アルコール度数が高いから、一気に飲みたいようにしてありました)。

ともあれ、新たな門出をちくしみんなで応援していますので新生活頑張ってくださいね～。



雪の積もった桜

目次：

広岡先生の随筆 ◎紅白歌合戦を見て	2
卒業式・修了式	2
畜産資源の思い出	3
日本畜産学会第112回 大会in明治大学	3
昨年度の総評と今年度 の抱負	4
お知らせ	5

もう4月だというのに、気温も上がらず、毎日じめじめとした天気が続いています。3月中旬には咲き出した桜も、寒空に行き場を失ったかのように見えません。大好きなこぶしの花も、盛りを雨の中で過ごしてしまいました。

研究室には、新メンバーが入ってきました。新しい環境に早く馴染んで欲しいですね。研究室の人数も3人増えて、23名になります。そして4月から2ヶ月間だけですが、ケニアからアレックス先生が帰って来られました！ちくしは3年ぶりですが、楽しんでいただきたいと思います。

好評連載 広岡先生の随筆

⑬紅白歌合戦を見て



例年通り、昨年の大晦日も紅白歌合戦を見ていた。その時、ふとあることに気づいた。それは、このところずっと白組が勝利している点である。一昔前までは、毎年、白組が勝てば翌年は赤組と、ほぼ交互に勝ち負けが決まり、その結果、互角の星取りであったように記憶している。ところが、このところずっと白組が勝っている。偶然であるのかもしれないが、よく考えてみると、この現象は視聴者が審査に参加するようになってからのようにも思われる。それまでは、



各界の著名人が審査員として会場に招かれ、その著名人たちが大勢を決する大きな1票を持っており、その他は会場にいる参加者が全体として1票を持っている程度であった。また、その年の前年に白組が勝つたとすれば、翌年は赤組が勝つように、NHKが意図的に演出上で盛り上げていたような気がする。ところが、最近は、携帯電話などで不特定多数の視聴者が審査に参加するようになり、それらの人々が、会場の審査員と平等の1票を持つようになったため、テレビ局の意図の入り込む余地はほとんどなくなった。そして、それから、白組がよく勝つようになってきた。なぜそうなったのだろうか。

紅白歌合戦は、形式上、男が白組、女が赤組と分れて、争う構図となっている。そもそも男と女が対決するというのは、今となっては何とも奇妙なことであるが、それも日本の大晦日の文化の一つと考えれば、そう目くらまを立てることもあるまい。それはそれとして、なぜ男の白組が勝つようになったかは疑問の残るところである。

そこで、もし、私が審査に1票を投じるとすれば、何を基準に審査するであろうかと考えてみた。おそらく、紅白の歌手の歌唱力や演出力など総合的な立場から審査するであろう。あるいは、子供の頃ならば、男であるという単純な理由から白組に1票を投じたかもしれない。

ところが、今年、家内に同様に1票を投じるとすれば何を基準にするかと問うたところ、思いもしない答えが返ってきた。彼女によると、自分の好きな歌手、知っている歌手のいる方に投票するという。その理由は、その歌手が喜ぶ結果を実現したい、あるいは単純にその歌手を勝たせたいというものであった。すべての女性がそうであるとはまったく思わないが、多くの女性がそうであるとするならば、いま、白組が勝ち続けているのもある程度理解できる。当然、女性は、男性歌手のファンが多いであろうから。このような仮説は、サンプル数が少ないので、客観的な根拠はないが、直感的にありえる事かもしれない。

男女平等、男女同権が言われて久しいが、男女の意識の相違に直面することがしばしばある。そのような時、その相違を知り、理解しようと努力することは重要である。NHKは、最近の紅白の勝ち負けの結果をどう考えているのだろうか。また、私の仮説をどう考えるだろうか。聞いてみたいものである。

広岡博之

平成21年度修了式&卒業式

平成21年度の修了式が3月23日に、卒業式が24日にみやこめっせでおこなわれました。天気が悪かったので、式後に専攻ごとにおこなわれる学位授与式への移動が大変だったと思います。晴れていても歩くにはちょっと遠い感じですね。

ちくしはM2のうち2人が修了、4回生は3人が卒業しました。修士の学位授与式の後には専攻の修了生と先生たちが集合写真を撮るのが恒例なのですが、ちょうど写真撮影ぐらいの時間にちくしのポストが、焦った様子で授与式の場所を聞きにこられてびっくり。もう間に合わないのでは・・・?と心配しましたが、撮影には何とか間に合ったようでよかったです。

京大の卒業式といえば仮装ですが、今年のちくしメンバーは誰も仮装をしなかったようで、さびしい限りです。4回生のイケメンが水嶋ヒロの仮装をするという案もありましたが、歯の不調により水嶋ヒロとはかけ離れたほっぺに(泣)!!! よりによって、卒業式の日に腫れてしまうなんてかわいそうでしたが、体調が悪くなった時は早めに対処すべきという教訓を得ました。。

修了生・卒業生のほとんどが引き続き研究室に残ります。これからもよろしくお願いします。



畜産資源の思い出

「一番の思い出」

僕は、畜産資源学研究室に2年間在籍させていただき、研究や学内行事を通じてたくさんの事を経験させていただきました。印象に残っているのは、はくび会です。はくび会では何故か副会長という重役に就かせていただきましたが、ちゃんと役割を果たせたのかは些か疑問です……。また、はくび会のソフトボール係として人生初となるソフトボール大会の運営やパスボール拾得用ネット「ボール取るンジャー」の開発など、はくび会を通じて色々な経験をさせていただきました。はくび会は、外部から来た僕のような学生にとって他の学生との交流を持てる場所だったのでとても大きな存在でした。これからもそんな交流の場として機能してほしいです。

「今後の進路」

卒業後は、某菓子会社の関連会社に就職します。勤務地はまだ決まっていませんが、しばらく大阪で新人研修をうける予

定です。会社の業務内容は、冷凍食品を作っていたり、畜産加工品(ハム)を作っていたりと幅広く行われているので、畜産加工食品の担当になれば畜産に関わっていけると思います。仮にそうならなくても畜産資源学研究室で勉強したことを活かせるように頑張ります。

「研究室へ送る言葉」

前の大学は先輩や後輩がいない環境だったので、畜産資源学研究室は、飲み会や研究といったことも含めて本当の意味での研究室生活を教えていただいた場所だと思います。2年間という短いけれど、とても内容の濃い時間を過ごすことができ、こんな僕を受け入れていただいたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

最後に、未完の神器「ボール取るンジャー」のこと宜しくお願いします、そして実験室はキレイに使いましょう……。 (文責:kim)

日本畜産学会第112回大会in明治大学

年度を締めくくる春の畜産学会が、3月27～30日に明治大学駿河台キャンパス・リパティタワーで開催されました。東京都心に程近い御茶ノ水駅から徒歩5分のキャンパスは、23階建てで、高速エレベーターとエントランスの吹き抜けホールを備え、さすが有名私立大学と唸ってしまうような素敵な建物でした。周辺には、楽器店や閑静な老舗ホテル、イタリアンレストランなどが立ち並び、普段の学会とはちよつと趣が違いました(お昼ご飯は老舗の蕎麦屋で食べました^^)。



今回の日本畜産学会では、西尾君、竹内さん、加藤君、酒井君、中川(智)さんと永世院生の長命さんが、日本山羊研究会では、塚原が発表を行ないました。学会参加は今回が初めて☆という人たちもいて、質疑応答でハラハラする一面もありましたが、一方で研究室内でのゼミ発表よりも堂々としていた人もいましたね^^)。ベテランの人たちは、直前まで発表時間短縮に苦しんでいたようですが、スライドの枚数調整をするなど

して本番では、しっかりとまとめていたのはさすがです。畜産学会では、普段使わない書画カメラ付のプロジェクターを使って発表が行われるため、不慣れなスライド交換に苦心することも多いのですが、今回は、すべて会場係りの方がスライド交換を担当してくださったので、無駄な失敗がなくてよかったです。

さて、今回の学会の懇親会は、名門明治大学マンドリン部の演奏と共に開幕しました。生寿司あり、北京ダックあり、ローストビーフありと、いつになく豪華なメニューでしたが、開始15分後には、ほとんどのお皿の中身が姿を消してしまいました。質を取る分量をとるか、なかなか両立は難しいようです。



次回の日本畜産学会は、来年3月、東京農業大学での開催予定です。ちなみに今年の8月には、台湾(台南)でAAAPが開催されます。(ようこ)



昨年度の総評と今年度の抱負

広岡先生

近年における畜産学研究の動向を見ると、世間受けし、見栄えのよい応用研究に注目が集まる傾向が見て取れる。たとえば、1990年代後半は体細胞クローンに関する研究、2000年前後は畜産環境問題の解決策に関する研究、その後、栄養学分野では自給飼料の向上に関する研究と放牧の研究、遺伝育種学分野では、遺伝子情報の利用に関する研究に力点が置かれてきた。

そのような中、これまでのわれわれ畜産資源学分野で行ってきた研究は、このような研究動向にうまく乗ってきたように思われる。あえて戦略的にそうしたわけではないが、結果として時流に乗り、このところ研究資金にも恵まれてきたように感じている。

しかし、昨年度で西尾君と木村君が研究室を離れたので、戦力ダウンがやむをえないが、新たに多くの学生が研究室の仲間となるので、今後とも研究室一丸となって頑張っていくと考えている。

これからの畜産資源の研究の方向性としては、一つとして海外での研究があり、これまでどおりネパールと中国での研究を行ってゆく予定である。特に中国では、余剰野菜を多給した日本では考えられないような酪農経営が営まれており、飼養されている乳牛の生理状態や給与飼料の調査や分析から、新しい発見が期待できそうである。

第2は、未利用自給飼料資源の探索であろう。その中には、当然、耕作放棄地における放牧利用の研究なども含まれるべきである。また、竹ペレットやポストエサプロの研究については、すでに多額の研究資金の獲得が決定しており、社会の期待に答えるためにも頑張っていく必要がある。

第3は、このような応用が重視されている時代にこそ、基礎的な研究も行って行く必要がある。特に、家畜を始めとする動物の成長や栄養素代謝に関する一般理論の開発やシステム理論を応用した研究は、次世代を見据えた研究として今後も取り組んで行く予定である。

私個人の昨年度の総括としては、筆頭著者の論文は、英文のレビュー論文1本と日本語の論文1本に留まった。今年度は、学科長になることも決まっており、ますます論文の執筆は困難になろう。しかし、そのような逆境にも負けることなく、今年度はこれまでの四半世紀にわたり取り組んできた畜産におけるシステム論研究の解説をこつこつ書いて行こうと考えている。

熊谷先生～新学期に向けて～

やるべき研究の目鼻はたっても、完遂することはなく、多くを積み残してしまったのが昨年度でした。いくつかのプロジェクトについては今春から来春にかけて区切りの時期となりますので、研究のまとめ、論文の作成、そして次なる研究の展開を図っていきたいと思います。昨年度から今年度にかけて研究室の世帯が大きくなり、外部資金が獲得できていることは、幸運なことです。アイデアを出し合い、議論を重ね、より良い成果を残していけるよう精進しましょう。国内外のフィールドにおける家畜生産の現状を理解し、問題の解決に向けて、特に地域の飼料資源や動物資源の特性を把握し、生産現場に成果を返していけるようにしたいものです。

大石先生～卒業した2人への言葉と今年度への期待～

また桜がきれいな時期になりました。

昨年度は2人の学生が卒業・就職しました。西尾君は動物遺伝育種学分野から当分野に修士課程で入学以来、4年の付き合いとなりましたが、無事、畜産草地研究所で研究員として育種学の研究を続けていくことになり、大変嬉しく思います。彼が当初修士課程の段階で他業界への就職を検討していた際、「国際金融取引と家畜育種のどっちにより興味がある？」と尋ねたら、迷わず「育種の研究」と答えたので、その道に進むことになって本当に良かったと思います。すでに誰もが認める実績と能力がありますが、今後ますます研究者の道を究めていって欲しいと思います。修士を修了した木村君とは2年の付き合いでしたが、特に2年目は実験系の管理・指導や放牧研究班の手伝いなど、研究室の多くのことで助けてもらいました。民間に就職していろいろ困難もあるかと思いますが、持ち前の面倒見の良さ、拾いづらいネタでがんばって欲しいと思います。困ったらいつでも相談に乗りますよ。

今年度はさらに学生が増え、畜産資源も大所帯になってきました。教員3人で協力して指導していきますが、同時に、同じような研究テーマを行う下の学生を上回生が率先して指導して欲しいと思います。指導は教員の仕事で学生の仕事じゃない、と思うかもしれませんが、下の学生の研究を見てあげることが、どのように説明すれば相手が理解するかと考える力が付き、同時に自身の研究に対して客観的に見つめられるきっかけにもなります。こういったことは、進む道に問わずどの世界においても重要なことだと思いますので、ぜひ自己訓練の1つだと思って取り組んでみて欲しいと思います。

Department of Animal Husbandry Resources, Kyoto University, Faculty of Agriculture Oiwakekyo, Kitashirakawa, Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

ゼミは13日から毎週火曜日に行います。13日は係決めやゼミの進め方などのオリエンテーションです。4月中は研究者会議はありません。

ゼミ係り

今月のイベント

4月のイベントは今のところありません。新歓の予定は決まり次第ご連絡します。

イベント係り

研究室の動向

酒井君 (M1)が4月1日から14日までネパールへ研究出張に出かけています。平成22年度は、新4回生が4名加わり、教員3名、事務1名、博士課程3名、修士課程11名、学部5名の合計23名になりました。E-303には大石先生と学生8名、E-307には学生12名が配属することになりました。

桜の庭の歓迎会

毎年恒例の応用生物科学専攻歓迎会（旧演習林の桜の庭）が4月9日（金）17:30から行われます。皆様ふるって御参加下さい。

入学式

4月7日（水）に京都市勧業館みやこめっせで大学院の入学式が午後2時から行われます。修士課程に進学の皆さん、おめでとうございます☆

2010年 4月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
3/28	29	30	31 児嶋・柳 体重測定④	1	2	3
4	5	6	7 加藤・石田 体重測定④	8	9	10
11	12	13	14 イクバル・木村 体重測定④	15	16	17
18	19	20	21 竹内・酒井 体重測定④	22	23	24
25	26	27	28 スリタヤニ・荒木 中川(靖)	29 昭和の日	30	5/1

編集後記 旅立つ仲間と、新しく加わる仲間たち、今年も研究室は変化の時期を迎えました。世の中も久しく「変化」や「改革」が叫ばれ、今、世の中は、10年前とは比較にならないようなスピードで変化しているように見えます。その中で、大切にしたい文化や考え方もどんどん失われてしまっているような気がしてなりません。研究室でも、望むべき将来像をしっかりと見据え、変化させるべきことと、存続させるべきことを、一人ひとりがしっかり考えて、責任を持った行動をしたいものです。